



## 友達の作文が新聞に！ 【特集号②】

ジビエ活用についての新聞を読んだ  
六年 猿渡 愛恵

わたしは、ジビエを給食などに活用することについて書かれている新聞を読みました。ジビエとは、家畜ではない野生動物のことで、シカやイノシシが代表的です。

ジビエを給食に活用する目的は二つあります。一つ目は、地産地消の取り組みを進めるためです。二つ目は、シカやイノシシなどが作物を食べてしまうような農業被害を減らすためです。

しかし、多くの都道府県が導入しているにも関わらず、農業被害はあまり減っていません。それは、被害を出していないシカやイノシシばかりつかまえてしまつて、被害を出しているシカやイノシシをつかまえていないからです。

対策としては、里においてくる野生動物をつかまえるために、人には無害なものを開発することが大切だとわたしは考えています

【令和3年8月10日夕刊デイリー】



動物愛護センターで学んだこと  
五年 中島 梨帆

わたしは遠足で「動物愛護センター」というところに行きました。「愛護センター」というところには、親とはぐれたり飼い主に捨てられたりした犬やねこがたくさん保護されていました。

愛護センターに着くと「命」についての勉強をしました。ちょうしん器を使って自分の心ぞうの音を聞きました。初めて聞く心ぞうの音は「ドクドク」という音がしました。これが「命の音」なんだと思いました。動物にも同じ命があることを学び、楽しみにしていた動物とのふれあいの時間がやってきました。子犬や子ねこ、パピヨンの「パピコちゃん」と遊びました。かわいい犬やねこと遊んでいるときは、はやく里親が見つかってほしいと思いました。そして愛護センターに来る犬やねこたちが少しでも減ってほしいと思いました。

今回愛護センターで学んだことをわすれず、動物を大切にしていきます。

【令和3年8月10日夕刊デイリー】



感染させないために  
六年 尾崎 文翔

ニュースでコロナウイルスの感染がいつまでたつてもなくならないどころかどんどん増えているのを見ました。人の一回のくしゃみで約三千個の飛沫が出るそうです。そこで私は、次の二点の提案をします。

一つ目は、閉鎖した空間で、長時間マスクをしない状態を作らないことです。大勢で小さい空間で話をしたら、五分間の会話で一回のせきと同じくらいの飛沫（三千個）が飛びます。そうなるのとたくさんの人に感染させる確率が高くなります。だから部屋はかんきをして、話をする時は、マスクをしないと飛沫を少なくできません。

二つ目は、外出から帰ってきたら消毒をして手洗いがいをする事です。一番目でマスクをし、かんきをしながら話すことも大事なのですが、ドアノブをさわった時にも飛沫が付きます。だから帰ってきた時は、手洗いがいなどをして、飛沫をなくすことが大事です。今、提案した二つはとても大事なのですが、やはり極力外出しないで人に感染させたりさせられたりしないという思いが大切です。

【令和3年8月10日夕刊デイリー】



